令和4年度外部評価　事業評価シート

No	4	事業名	雨水貯留浸透施設設置補助事業

所属	建設部土木課河川係	事業開始年度	平成15年度
事業内容	雨水貯留施設又は雨水浸透施設を設置する者に対し、経費の一部を助成します。		
目的	雨水の流出抑制及び地下浸透を推進し、雨水の有効利用及び良好な水循環を図り、地球環境の保全に資するため		
根拠法令等	安城市雨水貯留浸透施設設置補助金交付要綱		
総合計画	5Kの分類:きずな(11防災・減災　雨水貯留施設の整備)		
関連するSDGsゴール	11住み続けられるまちづくりを、13気候変動に具体的な対策を		
関連事業	調整池整備事業、雨水流出抑制施設設置指導要綱		

【実施状況】

活動実績

令和3年度

《雨水貯留浸透施設設置補助事業》
・雨水貯留槽を設置した、経過3年目と7年目の対象者に、利用状況について、アンケート調査を実施し、ホームページに掲載しました。(毎年実施)
・広報あんじょう6月号にPR記事を掲載しました。
・安城市雨水貯留浸透施設設置補助金交付要綱に基づき、経費の一部を補助しました。
○補助実績

名称	件数(件)	補助額(円)	貯留量(㎥)
貯留槽(雨水タンク)	13	235,000	2.0
浸透ます	1	7,000	
透水性舗装	1	30,000	
浄化槽転用	9	700,000	22.2
計	24	972,000	24

《雨水流出抑制施設設置指導に基づく地下貯留施設》
1件　　貯留量(㎥)　　371㎥
※雨水貯留浸透施設補助金交付要綱、雨水流出抑制施設設置指導要綱については裏面参照。

令和2年度

《雨水貯留浸透施設設置補助事業》
・広報あんじょう6月号にPR記事を掲載しました。
・利用者アンケート調査を実施し、ホームページに掲載しました。(毎年実施)
・安城市雨水貯留浸透施設設置補助金交付要綱に基づき、経費の一部を補助しました。
21件　　942,000円　　貯留量(㎥)　　23㎥

《雨水流出抑制施設設置指導要綱に基づく指導による地下貯留施設
1件　　貯留量(㎥)　　1,202㎥

令和元年度

《雨水貯留浸透施設設置補助事業》
・利用者アンケート調査を実施し、ホームページに掲載しました。(毎年実施)
・安城市雨水貯留浸透施設設置補助金交付要綱に基づき、経費の一部を補助しました。
10件　　352,000円　　貯留量(㎥)　　6㎥

《雨水流出抑制施設設置指導要綱に基づく指導による地下貯留施設》
0件　　貯留量(㎥)　　0㎥

●無作為に抽出した市民2000人を対象に「大雨対策に関するアンケート」を実施しました(裏面参照)。

改善取組(これまでの改善内容)

平成15年度　雨水貯留浸透施設設置に対する補助開始
令和2年度　PR用紙をリニューアル
令和4年度　・申請書式と添付書類の簡素化を実施
・あいち電子申請システムでの受付開始

別紙2

【事業費】

	No	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年間事業費等の推移	①	事業費(決算額)　(千円)	352,000	942,000	972,000
	事業費内訳	補助金	352,000	942,000	972,000
	②	人件費(従事職員数×6,300千円 令和3年度からは6,600千円)	12,600	12,600	13,200
		従事職員数　(人)	2.0	2.0	2.00
	③	総事業費(①+②)　(千円)	364,600	954,600	985,200
財源内訳		一般財源　(千円)	364,600	954,600	985,200
		特定財源(　など)　(千円)			
		財源合計　(千円)	364,600	954,600	985,200

【活動指標】

	令和3年度(実績)	令和4年度(目標)	令和5年度(目標)
雨水貯留浸透施設設置件数	24件	25件	25件

【成果指標】

	令和3年度(実績)	令和4年度(目標)	令和5年度(目標)
民間での雨水貯留量	395㎥	400㎥	400㎥

【課題】

	活動実績・事業成果等を踏まえて記入
課題	大雨による浸水被害防止や、河川への雨水流入量の抑制には行政による雨水対策だけでは限界があるため、個人の住宅や事業所による雨水貯留浸透施設の設置が有効です。設置を促進するため、広報あんじょうで毎年PR記事を掲載していますが、令和2年3月に実施した市民アンケートでは、雨水貯留槽等の必要性や有効性、補助金制度に対する認知度が低く、補助金の申請方法も分かりにくいという結果が出ています。 これまでも市独自のPR活動としてホームページや広報への掲載、町内会回覧、市役所窓口や公共施設でのパンフレット掲示、まちかど講座、ハウジングセンターや防災イベントへの出展等を行ってきましたが、近年はPR活動がマンネリ化しています。また、令和4年度には書類の簡素化や電子申請での受付を開始しましたが、手続きの簡素化にも限界があり、思うような成果が出ていません。 この他、大規模な開発工事(500㎡以上の雨水阻害行為)を行う事業者に対しても地下貯留施設の設置をお願いしていますが、こちらについては補助金がなく、お願いに留まるため、設置をする事業者が少ないのが実状です。

【論点】

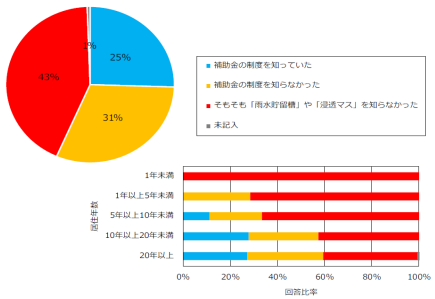
外部評価での論点	市民アンケートの結果では、雨水貯留施設や補助金制度の存在を知っていれば雨水貯留浸透施設の設置を前向きに考える市民は相当数いるものと考えられ、特に安城市に転入後間もない(居住年数が短い)方々の認知度が低いことが明らかになっています。 このことから、認知度が高まれば、設置に補助金を利用する市民は増えると推測しています。そこで、雨水貯留槽や浸透ますを設置するタイミングとしては、新築時が理想であると考えられますので、建築業者(ハウスメーカー、リフォーム業者)へのPRを始めとした認知度の向上のための方策について、ご意見を伺いたい。 また、事業者が地下貯留施設を設置する場合の補助金を含め、事業者向けの補助金メニューの方策についても、ご意見を伺いたい。

令和4年度外部評価　事業評価シート

【参考比較】

経年の状況等

○雨水貯留浸透施設設置補助金交付要綱《補助金の交付あり／任意》
降雨時における河川への流入負担の軽減を目的に、雨水をタンクで貯めたり、浸透ますでしみ込ませる施設（雨水貯留浸透施設）の設置に補助金を交付しています。貯めた雨水は植物への散水、災害時の雑用水などに有効利用が可能です（補助条件や補助金額はパンフレット参照）。設置する土地の大きさに制限がないため、新規・既存を問わず個人の住宅や小規模の事業所でも設置できます。安城市内全域が対象です。
○雨水流出抑制施設設置指導要綱《補助金の交付なし／高浜川・鹿乗川流域／任意》
500㎡以上の土地で雨水浸透阻害行為（開発・建築許可、農地転用）を行う場合に、地下貯留槽等の雨水流出抑制施設の設置をお願いするものです。安城市が農地の保水機能から水害から守られている環境であることから、現況と同程度の保水機能を担保することを目的としています。特定都市河川流域に指定されていない高浜川・鹿乗川流域が対象です。
○参考：特定都市河川浸水被害対策法《境川・猿渡川流域／義務》
特定都市河川流域では、河川整備や雨水を貯める施設、雨水排水施設の整備が促進されており、500㎡以上の土地で行う雨水浸透阻害行為ついては許可申請が必要となり、雨水貯留浸透施設の設置が義務付けられています。安城市北部の境川・猿渡川流域が対象です。
○「大雨対策に関するアンケート」
第2次安城市雨水マスタープランの施策に市民の意向を反映させるため、平成31年4月1日現在で18歳以上の市民の方から無作為に抽出した2，000人に大雨対策に関するアンケートを実施し、910票の貴重な回答をいただきました。



雨水貯留浸透施設設置補助制度の認知度

他市の実施状況等

【令和3年度実績】

岡崎市

名称	件数	補助額（円）
貯留槽（雨水タンク）	12	252,000
浸透ます	0	0
透水性舗装	0	0
浄化槽転用	0	0
止水板	3	914,000
計	15	1,166,000

刈谷市

名称	件数	補助額（円）
貯留槽（雨水タンク）	19	538,500
浸透ます	0	0
透水性舗装	1	173,000
浄化槽転用	0	0
止水板		
計	20	711,500

補助メニューなし